

みずほCustomer Desk Report 2019/10/08号(As of 2019/10/07)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.78
	GBP/USD	AUD/USD			
TKY 9:00AM	106.77	1.0983	117.27	1.2332	0.6764
SYD-NY High	107.46	1.1001	117.90	1.2336	0.6766
SYD-NY Low	106.55	1.0963	117.07	1.2288	0.6730
NY 5:00 PM	107.25	1.0970	117.70	1.2291	0.6731
NY DOW	26,478.02	▲ 95.70	日本2年債	-0.3400	▲ 1.00bp
NASDAQ	7,956.29	▲ 26.18	日本10年債	-0.2300	▲ 2.00bp
S&P	2,938.79	▲ 13.22	米国2年債	1.4668	6.22bp
日経平均	21,375.25	▲ 34.95	米国5年債	1.3965	4.87bp
TOPIX	1,572.75	▲ 0.15	米国10年債	1.5640	3.58bp
シカゴ日経先物	21,510	▲ 45	独10年債	-0.5760	1.30bp
ロンドンFT	7,197.88	42.50	英10年債	0.4480	0.70bp
DAX	12,097.43	84.62	豪10年債	0.8740	▲ 1.50bp
ハンセン指数	-	-	USDJPY 1M Vol	6.83	▲ 0.02%
上海総合	-	-	USDJPY 3M Vol	6.65	0.00%
NY金	1,504.40	▲ 8.50	USDJPY 6M Vol	6.93	▲ 0.03%
WTI	52.75	▲ 0.06	USDJPY 1M 25RR	-1.35	Yen Call Over
CRB指数	173.10	▲ 0.39	EURJPY 3M Vol	7.08	0.03%
ドルインデックス	98.97	0.16	EURJPY 6M Vol	7.38	0.01%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
10月7日	15:00	独 製造業受注(前月比/前年比)	8月 -0.6%/-6.7%	-0.3%/-6.4%

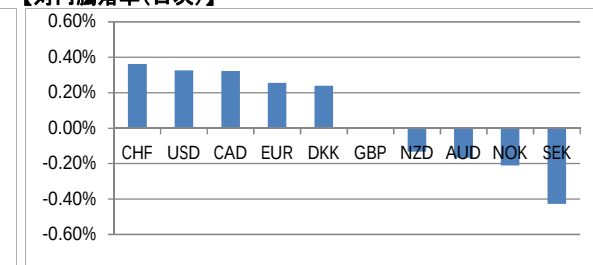
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
10月8日	8:50	日 経常収支	8月 ¥2,069.5b	¥1,999.9b
	10:45	中 Caixinサービス業/総合PMI	9月 52.0/-	52.1/51.6
	15:00	独 鉱工業生産	8月 -4.3%	-4.2%
10月9日	21:30	米 PPI最終需要(前月比/前年比)	9月 0.1%/1.8%	0.1%/1.8%
	2:35	米 エバンス・シカゴ連銀総裁講演		
	3:30	米 パウエルFRB議長講演		
	6:00	米 カシウカリ・ミネアポリス連銀総裁講演		

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】米経済指標ラッシュを終えて

先週は米経済指標発表ラッシュで、米国経済に不安を残す結果となった。8月の終わりに頃より米中貿易協議への期待を背景に堅調推移していたドル円相場のトレンドを変えることとなったのは9月ISM製造業景況指数である。市場予想を下回り、活動の拡大・縮小の分かれ目となる50を下回る47.8となった。2018年8月の60.8をピークに低下が続いている状況である。特に新規受注・雇用・輸出がいずれも3ポイント以上下落する大幅な落ち込み、輸出にいたっては10年ぶりの低水準となった。注目すべきは雇用であり本年の6月までの6ヶ月平均は54.3と非常に堅調な内容であったが、7月には51.7に、そして8月には47.4まで低下した。この流れはISM非製造業指数にも波及しており、9月の結果は景況指数・新規受注こそ前月から大きく上昇したものの、雇用については低下した。これまでFRBは米国の経済はインフレは目標に達していないものの雇用は堅調であり、総じて米国の経済は良好であるとの見方を示している。FRBによるこの見解の基となる雇用が崩れるようだと、いよいよ予防的利下げではなく積極的利下げとなってくるかもしれない。しかし先週金曜日の9月米雇用統計については、事前の警戒感が強かったこともあり思ったほど悪くないと受け止められることとなった。確かに失業率は50年ぶりの低水準、非農業部門雇用者数も市場予想を下回ったものの前月分が上方修正される内容であり、さほど悲観的になる内容ではなかった。その後のパウエル議長の発言もこれまでの繰り返しとなり新たな兆候は読み取れない。FRBの今後の動きは読みづらく、前回のFOMCでのドットチャートでは金利据え置きが示唆されたが、筆者は積極的利下げを迫られる前にもう数回利下げを実施するのではと考えている。でなければ予防的利下げの意味がないであろう。まずは10日の9月米CPIに注目したい。(玉井)

東京	早朝アジア時間に米中対立への警戒感から円高が進行するなか、東京時間のドル円は106.77レベルでオープン。オープン後は円高の勢い続かず、106円台後半で動意なく推移。10-11日に米中会談を控えることもあり様子見勢強く、特段動きのないまま106.88レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.84レベルでオープン。今週米ワシントンで開催される米中通過協議を控え様子見ムード。オープンレベルを小動きし、106.84レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.0978レベルでオープン。特段の欧州主要経済指標等の発表は無かったが、欧州株が堅調に推移したことから、ユーロドルもやや買いが優勢。1.0987レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2361レベルでオープン。愛首相や仏大統領が、ブレグジット新協定案について「今週末にも回答」と示唆していることから、全般的に結果を見極めたいムードとなり、方向感乏しい展開。10月19日までに合意がまとまらなければEUに離脱延期を申し出るよう首相に義務付ける通称「ハン法」について、スコットランド高裁が「法的拘束力がない」と判断したことで小緩み、1.2320レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 山本)
ニューヨーク	NY市場のドル円は、106.84レベルでオープン。朝方は特段の米経済指標発表が予定される中、米長期金利の上昇を横目にじりじりと上昇し、107円台を回復。また、「トランプ米大統領、米東部時間15時半に日米貿易協定の署名予定」とのヘッドラインが流れたものの、織り込み済みのため、市場の反応は限定的だった。午後にかけてはダウ平均が一時プラスに転じたこともサポートとなり、前日高値(107.13)を上抜け、107.18まで上昇。その後、「中国商務省が米国との通商協議において、複数の部分で合意する用意がある」、「中国は来年、米国とより多くの課題に取り組んでいく姿勢である」等のヘッドラインが伝わり、ドル円は買いで反応し、107.46をタッチ。買い一巡後、107.30付近で小動きとなり、107.25レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは、欧州経済の景気後退懸念が煽る中、ユーロ売り優勢の展開でスタートし、1.0962まで下落。しかし、その後、欧州株の堅調推移にサポートされ、1.0990まで買い戻され、1.0987レベルでNYオープン。朝方は海外時間の流れを引き継ぎ、じりじりと上昇。一時1.1001をつけるが、1.101レベルでは売り意欲も見られる中、1.0991レベル後半まで押し戻される。午後は先述の米中通過協議に関するヘッドラインを受けて、ドル買いが強まり、1.0969まで下落する。その後、1.0980まで値を戻すが上値は重く、終盤はじりじりと下落し、1.0970レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 玉井 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

	竹内	加藤	関	光石	岡本	上野	原田	玉井	森谷	ブル	ベア
Today	ベア	フル	ベア	ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ベア	4	5
Week	ベア	ベア	ベア	ブル	ブル	ブル	ブル	ベア	ベア	4	5